

□習志野市・秋津地域の自主防災について

千葉県習志野市秋津まちづくり会議 広報担当 佐竹正実

## 町の概要

習志野市・秋津地区は千葉県の東京湾埋め立てによって1980年にできた町です。私も長女の誕生と同時にこの町に越してきた第一期入居者です、入居して間もない頃はまだ人家も少なく、植栽物も小さかったため、風が吹くと、もうもうと砂塵が舞い上がり、洗濯物が干せないような町でした。場所は千葉県習志野市の東京湾に近い京葉道路と湾岸道路(東関東自動車道)に挟まれた約1.5km四方の地域です。当時の住宅公団が分譲した中層(5階建)の集合住宅と賃貸住宅、それに一戸建の住居で構成される住宅地です。(表1)2,646世帯・人口7,333人(2002年9月現在)の小さなまちで、私のような団

塊世代の家族が子育てのために住居を求めてきた人が中心の比較的若い世帯中心のまちです。2002年の9月現在で、65歳以上の高齢者は9.3%ですのでまだ、比較的若い町といえると思います。

## 地域活動

若く伝統も何もない地域でしたが、逆に小さいな区域ゆえのまとまりの良さ、また若い町ゆえの自由闊達さ、ボスが存在しない(しえない)など良い面もたくさんあります。特に地域の中央にある習志野市立秋津小学校を中心とした各種の行事や、小学校をまきこんだか活動が盛んに行われています。詳しくはそんな活動とそれにかかわっ

表1

区 域	形 態	管 理 団 体
秋津1丁目	分譲集合住宅	管理組合
秋津2丁目	分譲集合住宅	管理組合
	賃貸住宅	自治会
秋津3丁目	分譲テラスハウス	管理組合
秋津4丁目	分譲一戸建	町会
秋津5丁目	分譲一戸建	町会

た人の思いを面白くおかしく楽しく書いてある「学校を基地にお父さんのまちづくり」(秋津コミュニティ顧問岸裕司著:太郎次郎社刊)をお読みいただけるとこの地域の雰囲気はわかっていただけだと思います。今回はこの地域でのまちづくりとその一環としての自主防災の取り組みについてご報告いたします。新しい地域での自主防災活動を考えている方々の参考になれば幸いです。

### 現在の自主防災組織

新しい地域では同じようなケースも多いと思いますが、この地域の本格的な自主防災組織設立の動きは阪神淡路大震災を教訓に、習志野市が各地域に自主防災組織を作るように指導したことから始まります。私は秋津一丁目に住んでおりますが、この一丁目では、集合住宅に関する法令に基づく管理組合とは別に自主防災会が組織されています。しかし、管理組合の自治部が主体となり、総会も管理組合総会と一緒に実施しておりますし、会長も理事長が兼ねていますので、形式は別であっても実態はひとつの組織といえます。他の管理組合や自治会、町会も似たような状態です。

自主防災会は、市からの補助金と、管理組合からの支出で防災倉庫の管理、防災機材の点検・充実、防災訓練などを実施しています。この地域では、ほぼ同じような形態で表2のような形態の自主防災組織ができています。

### まちづくり会議による防災活動

秋津地域の特徴として、上記のような行政の指導による防災体制とは別に「秋津まちづくり会議」や「秋津コミュニティ」による防災を意識した行事とまちづくり活動をご紹介します。「秋津まちづくり会議」は現在の荒木市長が「キャッチボール市政」をキャッチフレーズに市内各地域に呼びかけて作った地域別の組織で1小学校区を1コミュニティとするという考えのもとに現在14コミュニティが設定されています。一般的には連合町会に当たる組織と思いますが、ちょっと違う点は構成員に地域にある公民館、福祉施設、PTA、生涯学習団体などの関係者がふくまれていることです。うまく機能している地域もそうでない地域もいろいろあるようですが、秋津地域では比較的うまく機能しているように思います。ま

表 2

区 域	自 主 防 災 組 織
秋津1丁目	秋津第一団地自主防災会
秋津2丁目	秋津第二団地・秋津住宅自主防災会
秋津3丁目	秋津第三団地自主防災会
秋津4丁目	秋津四丁目自主防災会
秋津5丁目	秋津五丁目町会自主防災会

た、「秋津コミュニティ」は前身を「秋津地域生涯学習連絡協議会」といい、生涯学習に関わるサークルの連合体で、市教育委員会から借りている秋津小学校の余裕教室を拠点にして活動しています。外部の方から見ると、企画団体と実行団体のようにみえますが、目的も組織の性格も異った団体です。しかし両組織に共通するメンバーが多いことが、幅広い活動を展開できる一因と思っています。

#### (1) 防災被災訓練をかねたワンデーキャンプ

1997年から始まり現在まで続いている行事ですが、夏休みに入った最初の土曜日と日曜日を利用して秋津小学校と併設されている秋津幼稚園の園庭で一泊キャンプをおこなっています。最初は防災と言うよりは幼稚園の園児の若いお父さんを地域活動に引き出そうということが、主な目的でしたが、いろいろなメンバーがいるとアイデアがどんどんふくらみます。市役所の防災課の人に来てもらって防災倉庫にある設備を使ってみよう、ついでに災害時用のトイレを使って見たい、そのまたついでにタンカに友達をのせて運んでみよう、というように普通の防災訓練より盛りだくさんのことができました。また小学校が避難場所となっていることを考えると日ごろ学校に来ることが少ない父親たちにとっても良い経験になるのではないかと思います。昨年度は幼稚園の行事と重なってしまいましたので園児の参加は少なくなりましたが、その代わりに消防署の協力を得てはしご車の試乗、ちびっ子防災服の着用、消火訓練などと盛りだくさんの楽しい訓練となりました。



#### (2) 上総掘りによる防災井戸掘り

秋津地域の20周年行事として上総掘りによる防災井戸掘りを実施しました。前年までに地域の人々と小学校が協力して秋津小学校にビオトープを完成させた勢いによってビオトープに水を供給し、被災時の飲料水を確保しようと井戸掘りを企画しました。

こだわってみたのは上総掘りという掘削方法です。千葉県・上総地域の伝統的な技術で機械を使わずに人間の力だけで井戸を掘る方法です。話に聞いただけでどんなものかと思っていたのですが、なんと地域に専門家おられ、その方はアフリカまで井戸掘りの指導に行ったことがあるとのこととびっくりしました。(人はいる、願えばいつかは叶う秋津流)大野篤志さんとおっしゃいますが彼の指導により、幼稚園児からお年寄りまで様々な方が参加し深さ約40メートルの井戸(一人で4センチ1,000人で掘れば40メートルというキャッチフレーズ)が完成しました。でも1週間後に保健所からいただいた水質検査の結果は塩分濃度と雑菌の関係からビオトープにも使えず被災時の飲料水としても使えないという残念なものでした。雑排水にしかならないとは確かに残念。でも転んではただではおきぬ秋津流、



昨年の防災ワンデーキャンプではなんと金属ロッカーを横倒しにした被災時の風呂の水源になっておりました。

手漕ぎポンプをつけ日ごろは子供たちの水遊びの道具になっています。

### (3) 秋津探検ウォークラリー

これも20周年行事として秋津内をお互いの地域を知り合おうと企画したものです。僅か約1.5km四方ほどの地域ですが歩いてみると知らない道があったり、お花のきれいな庭があったりとなかなか楽しいものでした。被災時にまち全体のイメージができていくことは多に役立つと思います。今年度はこの行事に防災マップ作りをくみこもうかと考えています。

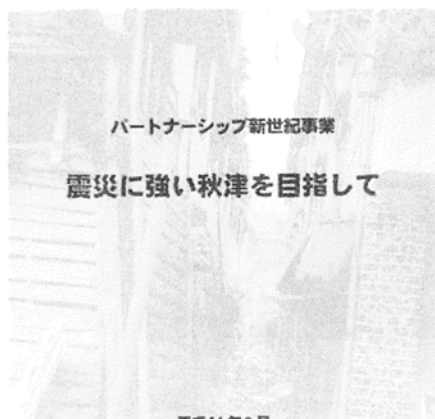


### (4) 「震災に強い秋津を目指して」の刊行

平成13年度は習志野市から各まちづくり

会議に対して「まちづくりパートナーシップ新世紀事業」という補助事業がありました。秋津では「秋津地区の防災」をテーマとして自主防災研究に取り組むことになりました。この研究については前年までのまちづくり会議議長であり建築のプロである石黒俊行さんがリーダーシップを発揮し研究成果を「震災に強い秋津を目指して」としてまとめることができました。秋津地域は千葉県民と言われるサラリーマンが大半を占めています。それがこの地域の問題点といわれることもあります。逆に多様な人材がいるのもまた事実です。これらの人々の知識、ネットワークを活用して内容のある研究をまとめることができました。地質のプロ、元NTT東日本の社員、東京電力の社員、もちろん建築のプロ、元市役所の職員など360°あらゆる角度からわが町・秋津の耐震について研究しました。ご参考までに項目のみを掲げます。今後このような検討・研究をされる方々の参考になればとおもいます。またこの研究の副次的な成果として資料の収集のために様々な行政マン(市役所、消防署、水道局など)と知り合いになる、地域内のリーダーたちが意見を戦わせて本当の意味で知り合いになるなどがあったよう

に思います。



### 【目次】

#### ◆想定される震災被害と震災対策の必要性

- (1) 現状把握と想定される被害(地盤、建築・土木構造物、ライフライン、被害予想のまとめ)
- (2) 自主防災会の活動

#### ◆秋津における震災対策

- (1) 震災対策の必要性
- (2) 建築・土木構造物
- (3) ライフライン
- (4) 物資・医療、支援体制、避難場所

#### ◆防災組織づくり

- (1) 基本方針
- (2) 組織図
- (3) 救護活動
- (4) 役割

#### ◆震災対策今後の課題

### 3. 今後の課題

補助事情としての研究は一応まとまりましたが、今後の課題も多くあることもわかりました。特に秋津地域の各自主防災会を

秋津地域としてどのようにまとめ市災害対策本部へ結びつけるのかといった組織論(組織図案参照)、災害弱者の把握とプライバシーの問題、老人施設等の被災時の対応、避難場所である秋津小学校の耐震調査の必要性など報告の中でもあげられています。平成14年度も防災研究会として研究を続けたいと思い、以下のような研究と活動を少しずつですが進めていこうと考えています。

1. 阪神・淡路大震災を想定した被害シュミレーション
2. 防災意識の啓蒙
3. 団体・公共施設・施設との連帯研究
  - (1) 行政が望む自主防災連絡協議会へのかかわり方
  - (2) 小学校・幼稚園との関わり方
  - (3) 社会福祉協議会・福祉施設との関わり方
4. 管理組合・町会での役割と防災体制
  - (1) 日常の体制
  - (2) 災害弱者の把握と対応
5. 行政への要望事項

最後になりますが、外部研修等に参加してみると、緊迫感・切迫感のある議論があり、秋津流のみんなで楽しみながらの防災活動で本当に良いのかと本音で考えてしまうこともあります。しかし、恐怖と緊張だけではリーダーも息切れしてしまうし、住民も疲れてしまうのではないかと思います。「草の根の防災活動の第一歩は住民の相互理解に基づくコミュニティの形成(=まちづくり)から」とらまえ、皆で参加し考える裾野の広い防災活動を目指して行きたいと思いません。以上

(参考今考えている組織案)

